

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

被災地における心不全患者の在宅療法に関する研究

分担研究者 横山 広行 国立循環器病研究センター

研究要旨

全国レベルでの心不全疾病登録モデルより、震災が国民の健康に及ぼす影響を解析し、その対策を立案するための基盤構築を目指し、全国における心不全入院の実態調査を行うための環境が整備されたため、次年度に計画に基づき解析を実施する

A．研究目的

被災地域においては震災で病院や診療所が全半壊、病院の廃業や医療人の損失・流出を引き起こし、深刻な医療崩壊の危機に直面した。医療体制の再構築過程の中で、医療機能の集約や連携とともに、在宅医療を推進し患者の医療ニーズに切れ目なく対応していくこと、健康管理、食事・栄養管理、衛生管理への支援が求められている。

本研究では、高齢者において「罹患率が高く」かつ「致命的」な疾患である心不全患者に着目し、同疾患をモデルとして在宅医療を推進し、早期回復と患者の負担軽減が図られる方策を提言することを目的とする。

B．研究方法

全国レベルでの心不全疾病登録モデルより、震災が国民の健康に及ぼす影響を解析し、その対策を立案するための基盤構築を目指している。初年度は、医療機関に収容された心不全症例の実態を把握するために、全国レベルでインターネットによるWeb登録を用いた悉皆的循環器病疾患実態調査を実施しうる環境を国立循環器病研究センターに整備した。

（倫理面への配慮）

疫学的研究であり、患者への負担はない。対象者が特定可能な個人情報収集しない。

C．研究結果

初年度に、全国レベルでの悉皆的循環器病疾患実態調査を実施しうる環境を整備し、学会と協力することにより、心不全と並び国民の健康への影響が大きい心筋梗塞について、その発症

を全国規模で、比較可能な体制を確立した。2012年の全国データの集積を本年度完了し、計画に基づいた解析を実施する。

D．考察

2012年の全国における心不全入院の実態調査を行うための環境が整備された。実際の調査開始時期が2013年5月～8月であり、データクリーニングの完了が2014年3月のため、本年度中に全国における心不全発症の実態を把握し地域格差について解析する。

E．結論

データを集積できる環境は整ったため、次年度からは毎年解析を実施する。

F．研究発表

Circ Journal. 2012; 76; 2372-2379.
Resuscitation. 2012; 83:684-91.
J Cardiology. 2013; 61:58-64
J Jpn Coron Assoc 2014;20 (in press)
日本社会精神医学会雑誌 2013;22:131-7
心臓 2013; 45(10);1334-1338
日本老年医学会雑誌 2013;50:748-751

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得；なし
2. 実用新案登録；なし
3. その他；なし

